

# CSR Report 2026

CSRレポート2026

**GEECHS**

# 目次

Contents

グランドビジョン	3	<b>2026年3月期の</b>	<b>8</b>	<b>ギークスグループ</b>	<b>16</b>
TOPメッセージ	4	<b>サステナビリティ推進目標に対する報告</b>		<b>サステナビリティ推進トピック</b>	
会社概要	5	2026年3月期のサステナビリティ推進目標	9	「人とAIの共創」体制の推進	17
GEECHS Social Impact Flow	6	マテリアリティ① 「技術リソースのシェア・流動化」の推進へのアプローチ	10	AI活用推進に向けた社内体制の強化	18
ギークスが取り組む 社会課題	7	マテリアリティ② 「IT・DX・AX人材の成長・リスクリング」の推進へのアプローチ	11	中小企業のデジタル化・DX推進を導く 「DX職 -デジシヨク-」のリリース	19
		マテリアリティ③ 「フリーランスが安心して働ける環境の整備」の推進へのアプローチ	12	健康経営の推進	20
		マテリアリティ④ 「コーポレートガバナンスの強化」の推進へのアプローチ	13	DEIの推進&チャリティ活動	21
		マテリアリティ⑤ 「パートナーシップの形成・拡充」の推進へのアプローチ	14	<b>2027年3月期の</b>	<b>22</b>
		マテリアリティ⑥ 「気候変動への対応・対策」の推進へのアプローチ	15	<b>サステナビリティ推進目標に対する開示</b>	
				2027年3月期のサステナビリティ推進目標	23

*Make the biggest impression  
in the 21st century*

「21世紀で最も感動を与えた会社になる」

ギークスグループが手掛ける事業の根幹にはこのグランドビジョンがあります。

提供するサービスを通じて、顧客への継続的な成功体験を届け、大きな感動へ繋げることが

私たちが目指す姿であると同時に事業に向き合う考え方やスタンスです。

# トップメッセージ

## Message from CEO

ギークス株式会社は、「21世紀で最も感動を与えた会社になる」というグランドビジョンのもと、2007年の創業以来、ITフリーランスの働き方支援を軸に、企業とIT人材を繋ぐ新たな市場を切り拓いてきました。

2026年3月期は、私たちにとって大きな「転換点」となった一年でした。AIの急速な台頭という劇的な環境変化において、企業が直面する課題は「労働力の確保」から「AIを前提とした仕組みの再構築（AX）の実装」へと一変しています。この変化を前に、私たちは提供価値を根本から再定義し、日本のDX・AXを全方位から支える「新しい時代のインフラ」へと進化する決意を固めました。

私たちが向き合うべき社会課題は、依然として深刻な「IT・AI人材の不足」、ひいてはそれ起因する「日本全体のデジタル実装の停滞」です。2040年には最大339万人のAI専門人材が不足すると予測されており、もはや従来のようなビジネスモデルだけでは、この巨大な社会課題を解決へ導くことは難しいと感じております。

本年度は、その具体的な取り組みのひとつとして、グループ会社のシードテックが「DX職 - デジジョク-」をリリースしました。中小企業のデジタル化・DXを推進するために「即戦力型のデジタル実務人材」を提供するサービスです。また、自社においても、「ギークス AIステートメント」の策定や統合型AIエージェント「GEECHS AI」の開発を推進しており、自らがAXの体現者となり、その知見を社会へ還元していくべく、組織の再設計を加速させております。

従来より「GEECHS Social Impact Flow」でお伝えしておりますが、日本・フィリピン・

オーストラリアを跨ぐ「グローバルシェアリングプラットフォーム」を基盤に、国境や組織の壁を越えた最適ナリソースの循環によって、「IT産業の成長支援」のみならず、多様な働き方の創出や地域経済の活性化、そして次世代の技術者育成という、多層的な社会的インパクトをもたらすことができると確信しております。

社会が大きな変革期を迎える今、私たちはこの変化を前向きに捉え、ステークホルダーの皆様と共に、より良い未来を実装していくパートナーでありたいと考えています。持続可能な社会の実現、継続的な企業価値の向上を両立できるよう努めてまいります。

本年度も「CSRレポート2026」を発行できることを嬉しく思うとともに、これからも上場企業としての社会的責任を誠実に果たしてまいります。今後とも変わらぬご指導・ご鞭撻を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。ギークスグループの今後のサステナビリティ推進に、ぜひご期待ください。



ギークス株式会社  
代表取締役 CEO **曾根原 稔人**

1975年生まれ。共同創業した会社で株式上場を実現後、日本にITフリーランスという働き方を普及させるため、2007年8月にギークス株式会社を設立。2019年3月東証マザーズに上場し、現在は東証スタンダード市場に上場。ITフリーランスの働き方支援による技術リソースのシェアリングプラットフォームを主軸に、IT・DX・AX人材を育成する事業などを展開する。

# 会社概要

About Us

<b>社名</b>	ギークス株式会社	<b>事業内容</b>	IT人材事業(国内) IT人材事業(海外) Seed Tech事業(シードテック株式会社)
<b>代表者</b>	代表取締役CEO 曾根原 稔人	<b>売上規模</b>	26,375百万円(2026年3月期 ※グループ連結)
<b>設立年月日</b>	2007年8月23日	<b>従業員数</b>	300名(2026年3月31日現在 ※グループ連結)
<b>本社所在地</b>	東京都渋谷区渋谷2-24-12 渋谷スクランブルスクエア 39階(WeWork内)	<b>グループ拠点</b>	東京本社、北海道支店、大阪支店、広島支店、福岡支店、名古屋サテライトオフィス、オーストラリア、フィリピン
<b>資本金</b>	1,112百万円(2026年3月31日現在)		
<b>上場市場</b>	東京証券取引所 スタンダード市場(7060)		
<b>役員構成</b>	代表取締役CEO 曾根原 稔人 取締役CFO 佐久間 大輔 取締役 成末 千尋 取締役 高原 大輔 社外取締役 松島 俊行	社外取締役 佃 友貴 常勤監査役 山口 祥子 社外監査役 花木 大悟 社外監査役 仲江 武史	



# GEECHS Social Impact Flow

## 価値創造サイクル

「GEECHS Social Impact Flow」はギークスグループの事業活動と社会貢献の繋がりを可視化したものです。

国際統合報告評議会 (IIRC) が示す国際統合報告フレームワークの中でも紹介されている「価値創造プロセス」のギークスグループ版であり、企業の経営資本、事業構成、社会貢献性、社会への影響度の一連の流れを明示し、社会の持続可能性にどれだけのインパクトを与えられるのかを表しています。

株主・投資家だけでなく、あらゆるステークホルダーの方々に分かりやすく届けられるように、SDGsのどのゴールを目指しているのかを伝え、また、グランドビジョンや事業ミッションの達成との連携を示すことで、会社で働くメンバーや求職者などに対しても理解を得やすい構造でまとめています。



**財務資本**

- 業績面における好調なCAGRを背景とした成長投資

**人的資本**

- クロスボーダーマネジメントスキル
- 女性・外国人比率
- オフショア開発オフィス

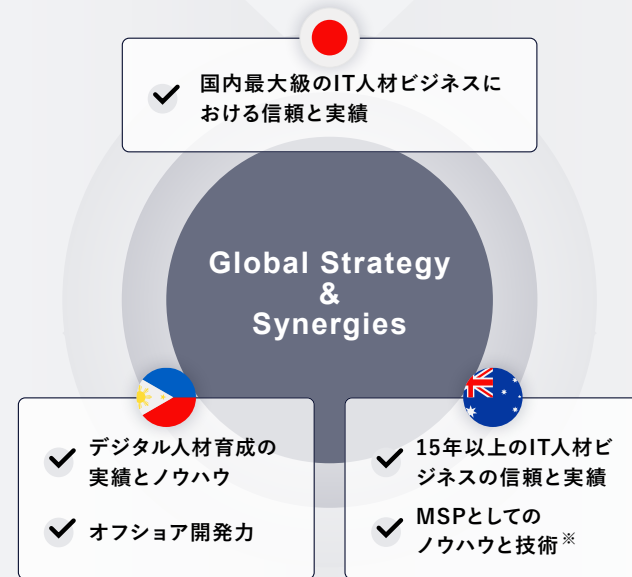
**知的資本**

- 技術投資
- 特許・ライセンス
- 技術・ノウハウ蓄積
- 独自の基盤システム

**社会・関係資本**

- ITフリーランス
- 顧客企業との関係
- 外部パートナー

### 各国間のノウハウ・リソース統合によるIT人材シェアリングビジネスの進化



- MATERIALITY 04** コーポレートガバナンスの強化
- MATERIALITY 05** パートナーシップの形成・拡充
- MATERIALITY 06** 気候変動への対応と対策

### 働き方の新しい「当たり前」を作る

**MATERIALITY 01**

技術リソースのシェア・流動化

国内市場 海外市場

**GEECHS launch**

**MATERIALITY 02**

IT・DX・AI人材の成長・リスクリング

国内市場 海外市場

ソダテック Seed TechSchool

**MATERIALITY 03**

フリーランスが安心して働ける環境の整備

フリノバ  
Freelance x Innovation

### 21世紀で最も感動を与えた会社になる

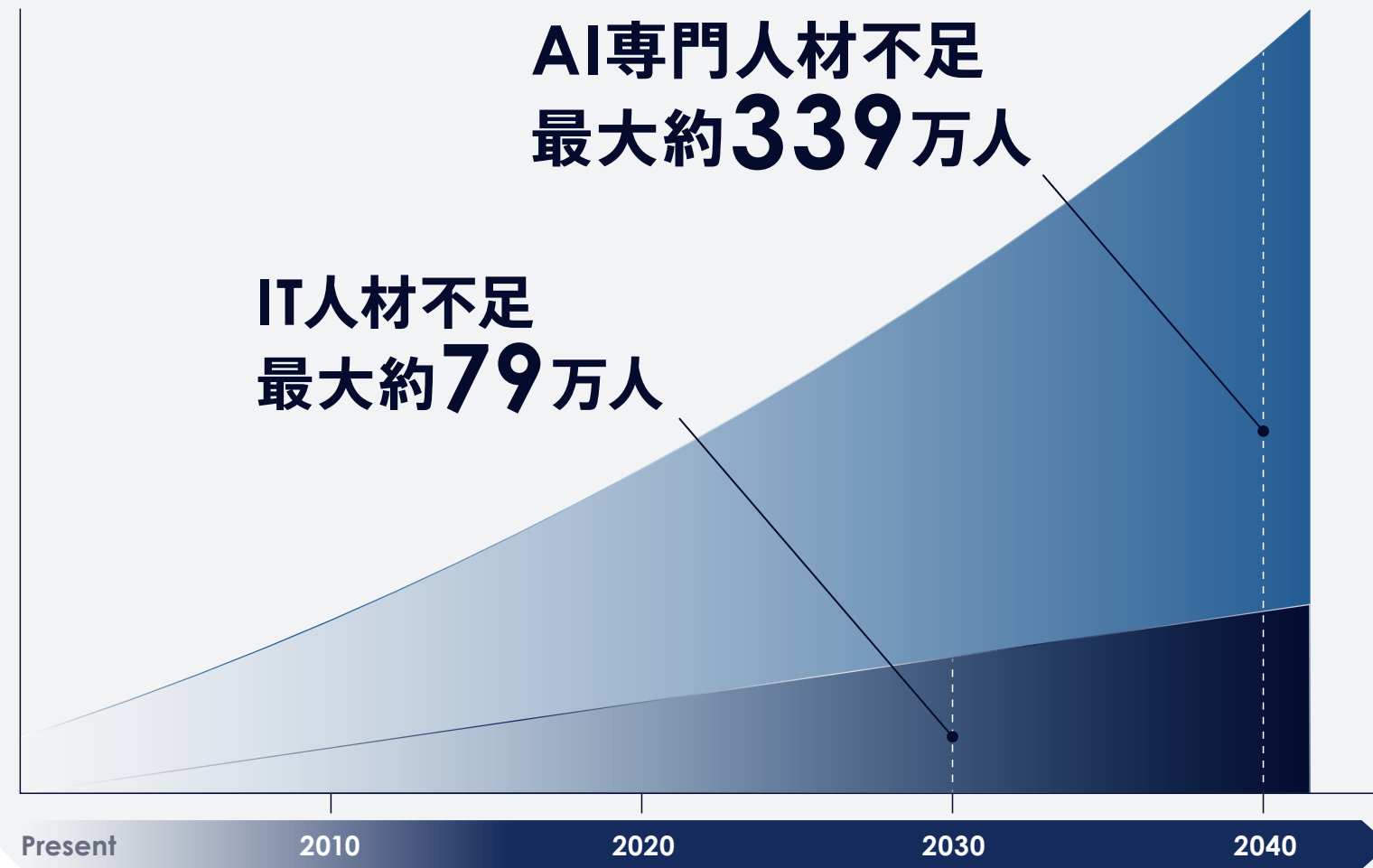
- 国内外におけるIT産業の成長寄与 (SDG 1: 貧困をなくそう)
- 雇用創出による途上国や地方の経済活性化 (SDG 4: 質の高い教育をみんなに, SDG 8: 働きがいも経済成長も)
- デジタル人材の成長・創出による社会発展への貢献 (SDG 9: 産業と技術革新の基盤をつくろう)
- 国境を越えた協業による産業と雇用機会の拡大 (SDG 16: 平和と公正をすべての人に, SDG 17: パートナーシップで目標を達成しよう)

※「CSRLレポート2025」公開時

# ギークスが取り組む社会課題

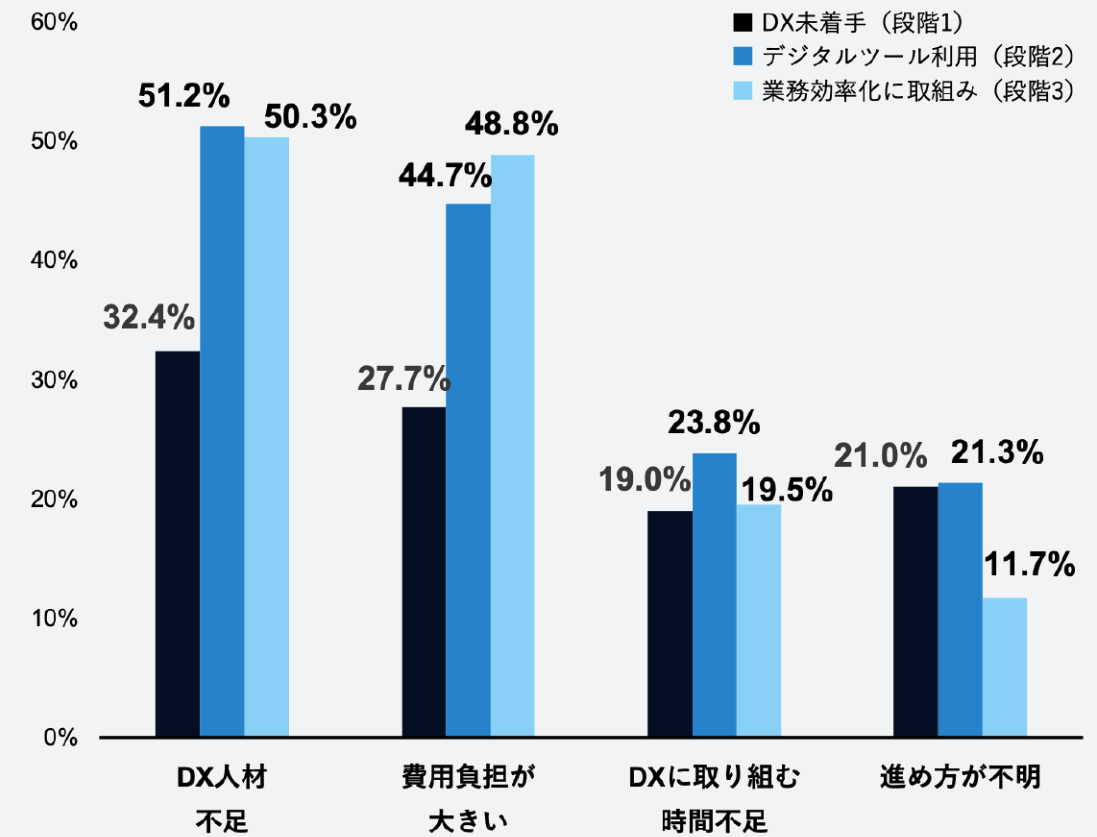
Social issues GEECHS is addressing

従来より社会課題となっていた「IT人材不足」に限らず、「AI人材不足」もまた騒がれ始めており、これらの人材不足が中小企業のDX推進の遅延や停滞へと繋がっています。



※IT人材需給に関する調査(経済産業省 2019年)、2040年の就業構造推計(改訂版)(経済産業省 2026年)を基に、当社作成。

## 中小企業のDX進捗と「人材」「コスト」の課題



※『2025年版「中小企業白書」』を基に当社作成。DX推進の初期～進展段階にある企業(段階1~3)を対象として集計。

## DX推進の停滞と限界

- ・中小企業において、DX化が進んでいない企業は約60%(DX白書より)。
- ・DX推進を阻む最大課題：1.「人材不足」(51.2%) 2.「費用負担」(48.8%)

# 2026年3月期の サステナビリティ推進目標に対する報告

# 2026年3月期のサステナビリティ推進目標

Sustainability Promotion Goals for FY3/2026

2026年3月期は、6つのマテリアリティに対する取り組み、また、ギークスのサステナビリティ推進担当部門による各種取り組みを通じて、ギークスグループのサステナビリティ推進を実施していきます。

## ◆ 6つのマテリアリティ①

### 「技術リソースのシェア・流動化」の推進目標

・「GEECHS JOB」新規登録者数、取引企業数

## ◆ 6つのマテリアリティ②

### 「IT・DX・AX人材の成長・リスクリング」の推進目標

・シードテックのサービスである「ソダテク」や「Seed Tech School」の利用者の拡大

## ◆ 6つのマテリアリティ③

### 「フリーランスが安心して働ける環境の整備」の推進目標

・フリノベの運営  
・オンライン、オフラインでのイベントやセミナーの実施  
・顧客ロイヤリティ調査の実施

## ◆ サステナビリティ推進担当部門の推進目標

・サステナビリティ推進に関連するイベントの実施、情報発信、ブランディング強化  
・6つのマテリアリティの取り組み施策への支援及び再検討

## ◆ 6つのマテリアリティ④

### 「コーポレートガバナンスの強化」の推進目標

・ゼロトラストを基準とした情報システム管理体制の推進  
・全社員を対象としたコンプライアンス研修の実施  
・上場企業の社会的責任遵守に向けた適切な情報開示

## ◆ 6つのマテリアリティ⑤

### 「パートナーシップの形成・拡充」の推進目標

・健康経営の推進  
・様々なステークホルダーを対象としたイベント等の企画実施

## ◆ 6つのマテリアリティ⑥

### 「気候変動への対応・対策」の推進目標

・ギークスグループ全体のサステナビリティ開示の実施  
・SX推進の観点からの業務改善提案

# 技術リソースのシェア・流動化

Sharing and Flexibility of Technical Resources

ITフリーランス新規登録者数、取引企業数に着目し、  
マテリアリティ①「技術リソースのシェア・流動化」の進捗を確認しております。

## GEECHS JOB

### ギークスジョブ

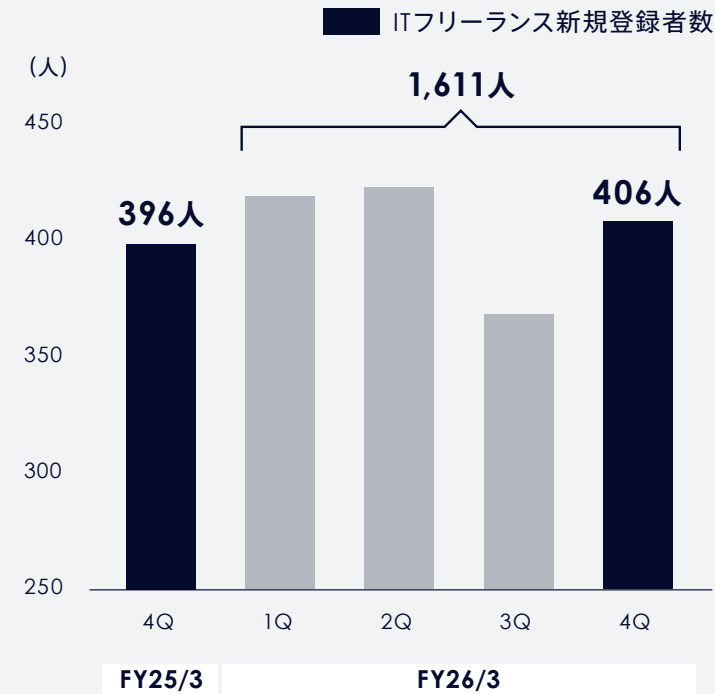
登録者数24,000名、取引企業数4,000社を超えるITフリーランス専門エージェント

## GEECHS DIRECT

### ギークスダイレクト

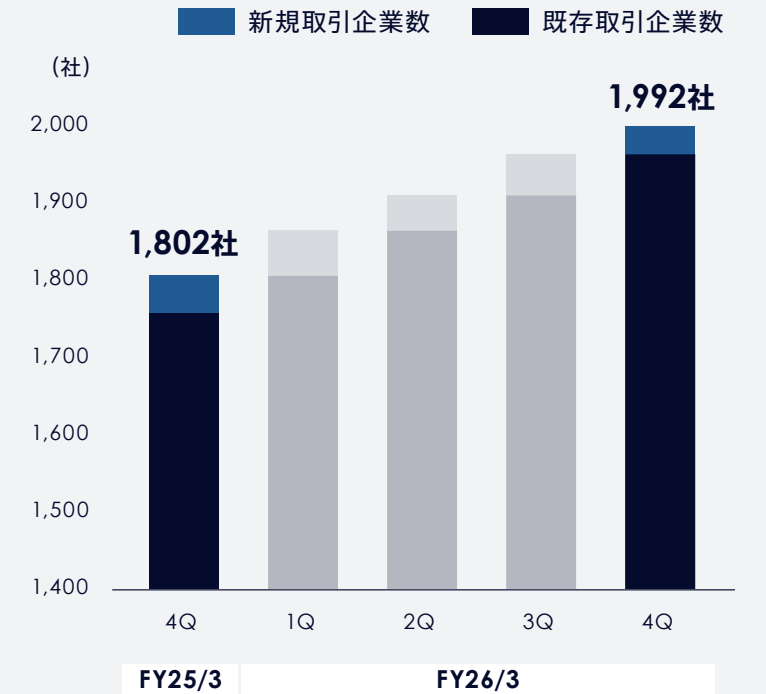
企業の採用担当者が直接ITフリーランスを探せる人材サーチ型マッチングプラットフォーム

### ITフリーランス新規登録者数



■ITフリーランス新規登録者数は通期で1,611名となり、堅調に増え続けています。フリーランスという働き方を選択した方々へのサポートを通じ、雇用にこだわらない人材活用を広げています。

### 取引企業数



■新規取引企業数は通期で190社増え、累計で1,992社となりました。IT人材事業本部の事業ミッションである「働き方の新しい『当たり前』をつくる」の体現に確実に近づいております。

### マテリアリティ①「技術リソースのシェア・流動化」

2030年に最大79万人のIT人材が、2040年に最大339万人のAI専門人材が不足するという想定(経済産業省調べ)に対し、企業の枠を超え、複数のプロジェクトに携わることができるITフリーランスの活用を通じ、課題解決に取り組んでおります。ITフリーランスの方々の技術スキル・経験・志向性、そして企業の案件をデータベース化し、「技術力をシェアするプラットフォーム」の役割を担うことで、雇用にこだわらない人材活用を啓蒙しております。

**8** 働きがいも  
経済成長も

**9** 産業と技術革新の  
基盤をつくろう

# IT・DX・AX人材の成長・リスキリング

Growth and Reskilling of IT, DX, and AX Talent

グループ企業であるシードテックのデジタル人材育成のサービスやナレッジをはじめ、ギークスグループでの各種セミナー・イベント開催やエンジニアの案件参画などを通じて、マテリアリティ②「IT・DX・AX人材の成長・リスキリング」を推進しております。

## Loop A

### エンジニア未経験からのIT・DX・AX人材へのキャリアチェンジ

未経験からでも、ギークスグループの育成インフラを通じて市場価値の高いIT・DX・AX人材としてのキャリアを築くことができます。

STEP 1

#### インプット機会の提供

デジタル留学やソダテクを受講を通じて「AI-Ready」なスキルを習得

STEP 2

#### ギークスグループでのキャリアスタート

ギークスやシードテックに入社しDX・AX領域における実務を開始

STEP 3

#### 複数のプロジェクトでの経験値獲得

複数のDX・AXプロジェクトに参画することで、現場経験・技術力・ビジネス視点を習得

STEP 4

#### キャリアの分岐

①グループ内でキャリアを積み、PMやBizDev、経営幹部の道へ  
②フリーランスとして独立しギークスを通じて、高単価・高付加価値案件への参画へ

STEP 1

#### インプット機会の提供

ギークスグループが提供するイベントやセミナー、コミュニティなどでの学習機会を通じて「AI-Native」なスキルを習得

STEP 2

#### DX・AX案件への参画

ギークスやシードテックのネットワークを生かした、最先端かつ高難度なDX・AXプロジェクトへ参画

STEP 3

#### キャリアの価値転換

「専門性 × AI-Native」人材として、市場価値が向上

STEP 4

#### 高単価・高付加価値人材としてのブランド構築

DX・AXの観点から、企業の事業活動、マネジメント、リスク管理などを推進できる人材としてのキャリアを構築

## Loop B

### IT・DX・AX人材のキャリア進化

既存の専門性にAIスキル・リテラシーを掛け合わせ代えの効かないIT・DX・AX人材としてのキャリアを築くことができます。



Seed Tech School

デジタル留学  
「Seed Tech School」

フィリピン・セブ島で合宿形式でITとAI、英語を学ぶデジタル留学スクールを運営しています。これまでに2,400名を超えるグローバルIT人材を輩出し、多くの方々の「LIFE SHIFT」の機会を創出しています。



ソダテク

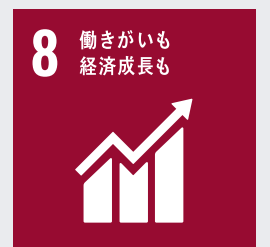
デジタル人材育成プラットフォーム  
「ソダテク」

デジタル人材育成を目的としたオンライン学習プラットフォームにて、500本以上の動画教材を提供し、未経験・非ITエンジニア層のリスキリングから、現場で活躍できるデジタル人材の育成まで対応しています。



## マテリアリティ②「IT・DX・AX人材の成長・リスキリング」

グループ会社のシードテックでは、2013年よりフィリピン・セブ島でのデジタル留学を開始し、現在は「Seed Tech School」の運営や「ソダテク」の提供によって、IT・DX・AX人材の育成・母数拡大に貢献しています。また、ギークスでは、エンジニアの方々を対象にした無料セミナーやイベントを毎月複数回実施し、AI時代に求められる知見やスキルセットなどを発信しています。 ※「CSRレポート2026」より、マテリアリティ②は「IT・DX・AX人材の成長・リスキリング」としております(AI人材をAX人材に変更)。



# ITフリーランスが安心して働ける環境の整備

Creating a Safe and Supportive Work Environment for IT Freelancers

ITフリーランス向け福利厚生プログラム「フリノベ」の運営をはじめとして、様々なイベントやセミナーの開催などを通じて、マテリアリティ③「ITフリーランスが安心して働ける環境の整備」を推進しております。



## ITフリーランス向け福利厚生プログラム「フリノベ」

ITフリーランスの不安要素を解消するために、ヘルスケア・会計ソフト・提携ローンなど、2017年1月のサービス開始以降、約50サービスと提携しています。



## ITフリーランス懇親会

ITフリーランス同士の横の繋がりをつくるきっかけとして、オフラインでの懇親会を運営しています。2026年3月期は東京・大阪・福岡の3拠点で開催しました。



## 各種セミナー

確定申告やフリーランスを取り巻く法制度の改正などを解説するセミナー、自身のスキルや経験を試すハッカソンの開催などを行っています。

## 「フリーランスエージェントAWARD 2026」にて「GOLD」を受賞



日本国内で活動する300社以上のフリーランスエージェントの中から、フリーランスエンジニアによるユーザー投票や業界関係者からの推薦等の評価軸をもとに厳正な審査が行われ、総合評価上位5社に贈られる「GOLD」を獲得しました。

## マテリアリティ③「ITフリーランスが安心して働ける環境の整備」

ゲークスでは、ITフリーランス向け福利厚生プログラム「フリノベ」を2017年より運営するなど、ITフリーランスの声をもとに働き方を支援するサービスを生み出してきました。フリーランスというキャリアの選択を後押しし、安心して長く働き続けられる環境づくりを目指しています。



# コーポレートガバナンスの強化

## Strengthening Corporate Governance

IT人材事業を中心としたギークスグループの事業戦略を支えるため、強固でセキュアな情報管理体制の構築を進めております。また、東証スタンダード上場企業としての社会的責任を遵守するために、経営管理本部が中心となり、コンプライアンス研修の機会を確保しております。

これらの取り組みを通じてマテリアリティ④「コーポレートガバナンスの強化」を推進しております。

### PマークやISMSの認定取得

会社の事業継続・発展・社会的な信頼の獲得のため、個人情報保護マネジメントシステムの体制を整えております。社内規程の整備や社内ルールの徹底が評価され、PマークやISMSの認定を取得し、高セキュリティが要求される事業を営む当社として、セキュリティ国際基準・国内基準をクリアしていくことを目指しています。



### コンプライアンス研修&チェックテスト

コンプライアンス研修を毎年3月に実施しており、動画視聴とテキストの確認によって、インプットの機会が提供されています。また、新入社員は入社時に同様の研修を受講しています。研修受講後のチェックテスト受験を経て、研修終了となります。

- ・個人情報保護及び秘密情報保護研修
- ・インサイダー取引防止研修
- ・ハラスメント防止研修
- ・反社会的勢力排除研修

研修の機会を通じ、情報システムガイドラインやSNSガイドラインの確認、健康経営やサステナビリティ推進に関する理解促進も行っております。

### マテリアリティ④「コーポレートガバナンスの強化」

IT・DX・AX人材の活用を軸としたギークスグループのサービス性質上、強固でセキュアな情報管理体制を土台として、健全性の高い組織を構築、永続的に維持していくことで社会からの信頼を得ることが企業の持続可能性において重要であると考えています。この認識とコンプライアンスの重要性をコーポレートガバナンスの基本的な考え方として、社会的責任を果たします。

16 平和と公正をすべての人に



# パートナーシップの形成・拡充

## Building and Expanding Partnerships

マテリアリティ⑤「パートナーシップの形成・拡充」を推進するため、2026年3月期は様々なステークホルダーの方々に向けて施策を実施いたしました。

### ●ギークスグループで働くメンバーに向けて



ギークスアワード



Seed Tech All Hands Meeting

### ●ギークスグループのサービスご活用者の皆さまに向けて

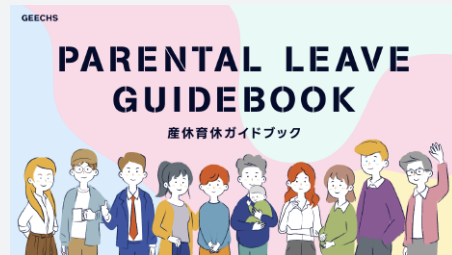


ITフリーランス懇親会



Seed Tech Reunion

### ●ギークスグループで働くメンバーのご家族に向けて



産休育休ガイドブック



WeWork KIDS DAY

### ●企業の社会的責任の遵守に向けて



決算開示資料



CSRレポート2025

## マテリアリティ⑤「パートナーシップの形成・拡充」

持続可能な社会の実現を達成するためには、ステークホルダーとのパートナーシップが重要であると考えています。社員・家族・ITフリーランス・パートナー企業・株主・社会との接点において、ギークスが果たす役割を最大化させます。

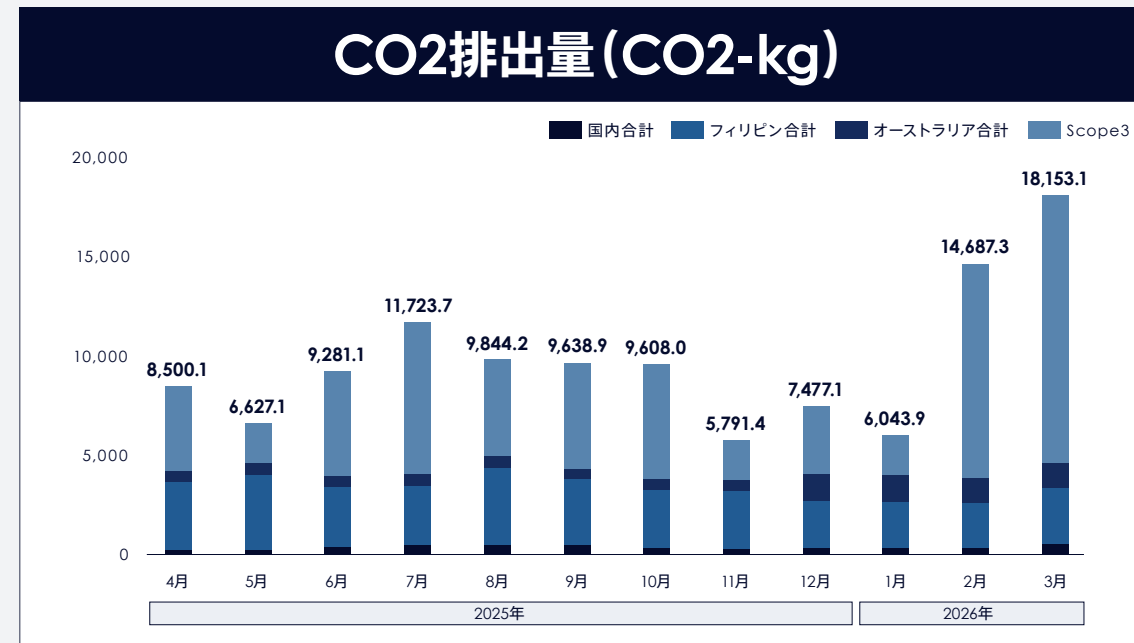
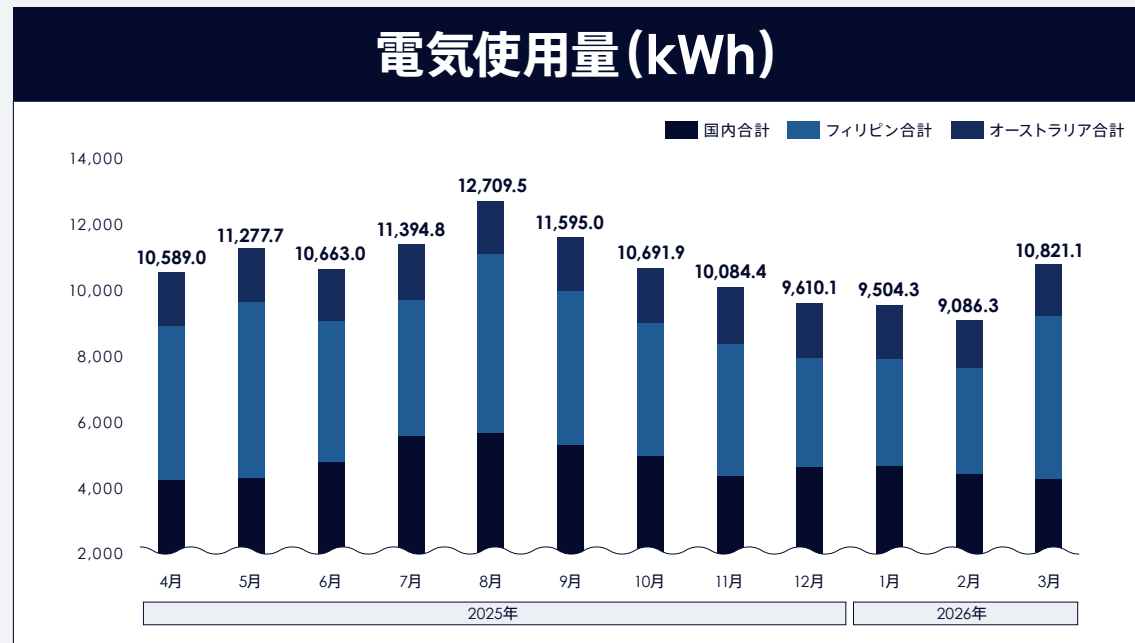
17 パートナーシップで  
目標を達成しよう



# 気候変動への対応と対策

## Response to Climate Change

日本・フィリピン・オーストラリアに拠点があるギークスグループでは、マテリアリティ⑥「気候変動への対応と対策」を推進するため電気使用量・CO2排出量 (Scope2,3) の算定と開示を実施しております。



・CO2排出量の開示につきましては、ギークスグループの事業領域、オフィス戦略の観点から、Scope2およびScope3(リース機器・通勤・出張)を算定対象としています。  
 ・東京本社、メルボルンオフィスにつきましては、再生可能エネルギー活用による電力使用により、CO2排出量をゼロとカウントしております(メルボルンは2025年4月~11月)。

### マテリアリティ⑥「気候変動への対応・対策」の推進へのアプローチ

私たちの生活に深刻な影響を及ぼし始めている気候変動に対して、ギークスグループでは環境負荷の低い事業の展開や企業活動による温室効果ガスの排出量の抑制などを通じ、地球環境へのリスクを軽減した取り組みを進めております。



ギークスグループ

サステナビリティ推進トピック

「人とAIの共創」体制の推進

AI活用推進に向けた社内体制の強化

中小企業のデジタル化・DX推進を導く  
「DX職 -デジショク-」のリリース

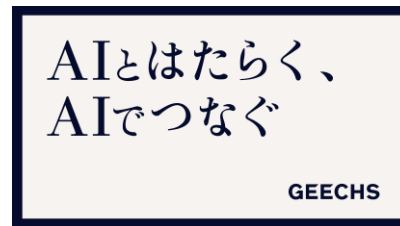
健康経営の推進

サステナビリティ推進に向けた取り組み

# 「人とAIの共創」に向けた取り組み

## Human-AI Co-creation

ギークスの中核事業であるIT人材事業(国内)を牽引するIT人材事業本部では、AI活用が不可避となった社会において、「人とAIの共創」の実現とともに人材ビジネスのスタンダードそのものをアップデートすべく、様々な施策を実行しております。



### ギークス AIステートメント

「AIとはたらく、AIでつなぐ」をコンセプトに、様々な業務プロセスの中で「人とAIの共創」のあり方を整理し、すべての業務を「人とAIが掛け合う設計」に組み換え、人材ビジネスのスタンダードそのものをアップデートする決意を示した宣言です。



### AI利活用プロジェクト

IT人材事業本部内の「AIリテラシーの向上」と「AIツールの利活用推進」を目的に、有志メンバーによる部門横断型のプロジェクトです。ナレッジやノウハウなどの社内展開や週3回のAI活用相談会の開催などを行い、メンバー全体のAIスキルを底上げしています。



### AIコンテスト

実際の業務課題をAIを駆使して解決するための「AIコンテスト」を開催しました。通常業務と並行しながら、15チーム・総勢85名ものメンバーがエントリーし、「グローバルなエンジニアチームの日本語コミュニケーションの課題解決を促すAIツール」が優勝しました。

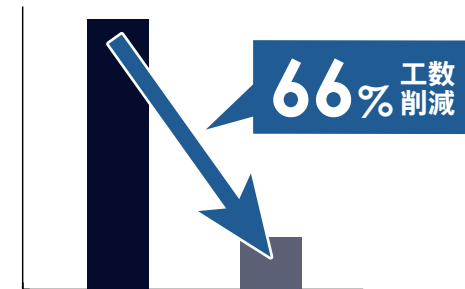


### GEECHS AI

業務効率化やマッチング精度の向上を目的とした、現場メンバーが活用する統合型AIエージェントです。ギークスが保有するデータや営業ノウハウを「GEECHS AI」に集約し、メンバー全員がトップレベルの成果を再現できる環境を目指しています。

### ●AI活用による実績(一例)

#### ①ITフリーランスの紹介資料の作成



ITフリーランスを企業にご紹介するための資料作成の工数がAI活用によって「66%」削減

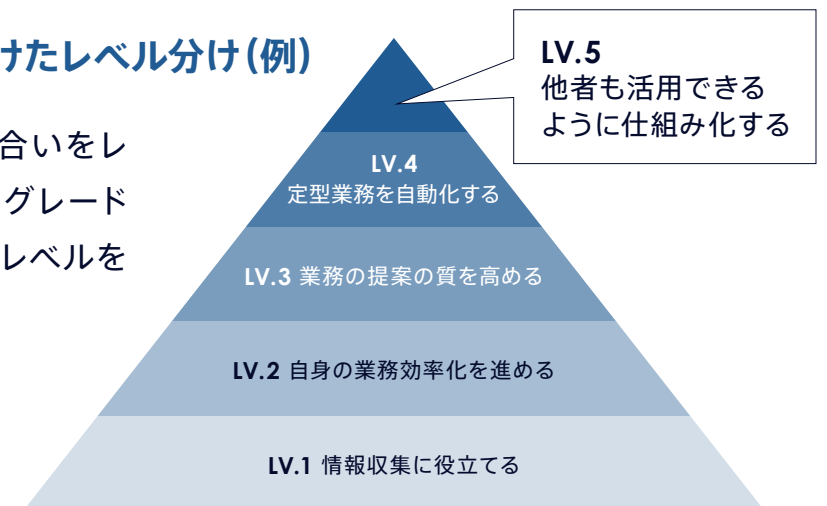
#### ②案件参画中のITフリーランスへのヒアリング



CS担当のフォロー業務における情報収集・入力率が、AIによる機能実装・UX改善により「39.5%」向上

### ●AI活用の浸透に向けたレベル分け(例)

メンバーのAI活用の度合いをレベル分けし、それぞれのグレードや役割に応じて、求めるレベルを策定しています。

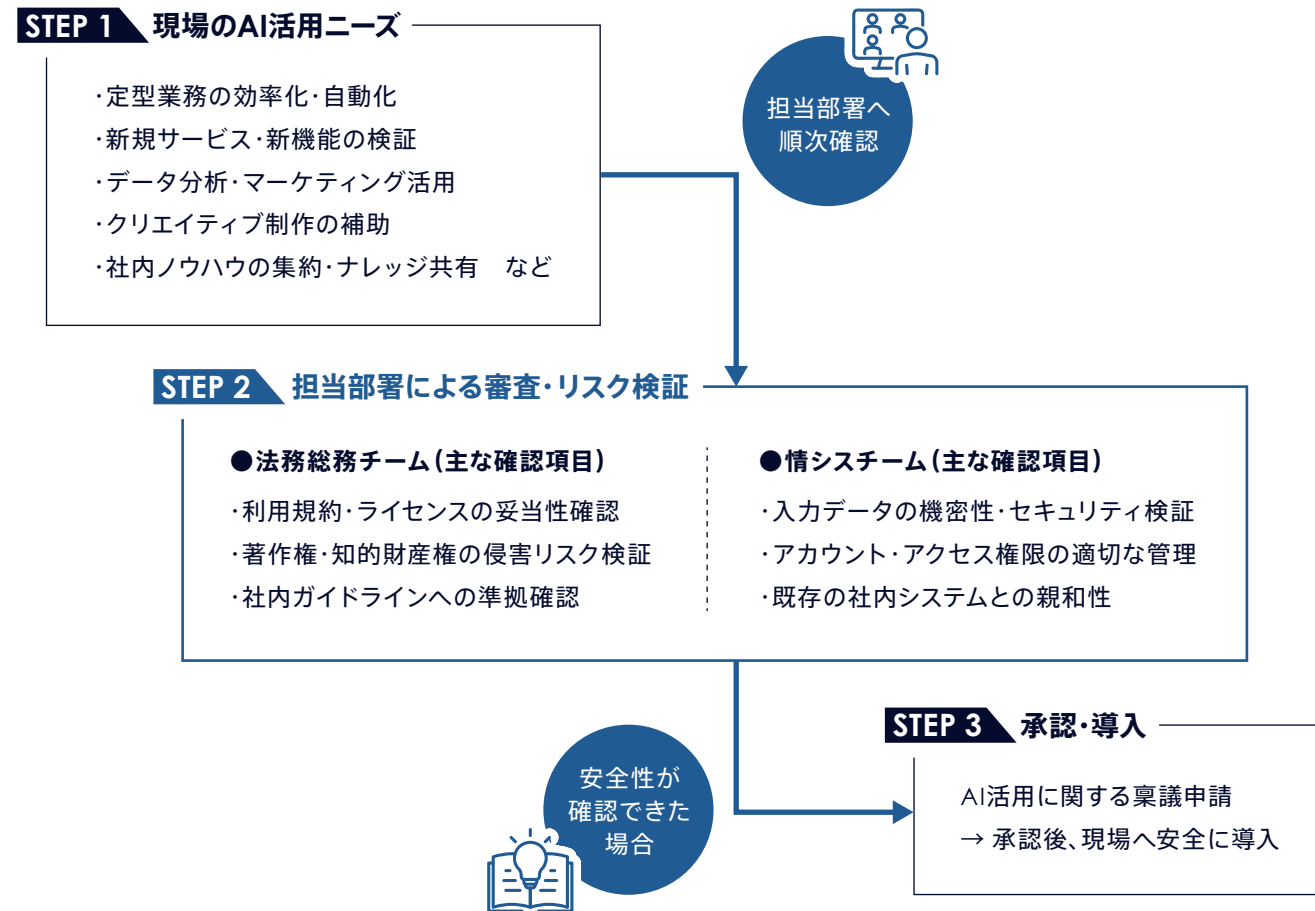


# AI活用推進に向けた社内体制の強化

## Strengthening Internal Systems for AI Promotion

ギークスでは、業務におけるAI活用を全社的に推進しており、現場のニーズに基づいた迅速な導入・活用を進める一方で、経営管理本部 コーポレートデザイン部の法務総務チームや情シスチームによる危機管理体制を強化し、攻めと守りの両面から社内体制を整えることで、安全かつ効果的なAI活用を実践しています。

### ●AI活用管理フロー



### ●AI活用が加速する4つの背景

#### ①経営陣の深い理解とコミットメント

経営陣自らがAI活用の重要性を発信し、迅速な投資やリソース配分を決定。ビジネスモデルをIT人材領域のみならず、DX・AX領域へと進化させる方針を強力に牽引しています。

#### ②ガイドラインの迅速な策定・浸透

AI活用が騒がれ始めた段階から、法的リスクや情報セキュリティ等に配慮した独自のガイドラインを策定し、全メンバーに周知徹底することで、安全なAI活用の土台を築いています。

#### ③効率的なAI活用管理フローの運用

法務総務・情シスの両チームによる「攻守のバランス」がとれた一元的な審査フローを構築し、現場のニーズを形骸化させず、迅速かつ安全に承認・導入できる仕組みを運用しています。

#### ④現場メンバーの興味・関心と活用意欲

IT人材業界のパイオニアとして、最新技術のインプットや挑戦を歓迎するカルチャーが広がり、現場の高いリテラシーと主体的な活用意欲が、全社的な推進力に繋がっています。

# 中小企業向けDX推進サービス「デジショク」のリリース

DX service for SMEs : "Digishoku"

グループ企業のシードテックでは、多くの中小企業が抱えるデジタル化・DX推進の課題解決のため、2025年7月に即戦力型のデジタル実務人材を提供するサービスを開始しました。

## DX職 デジショク

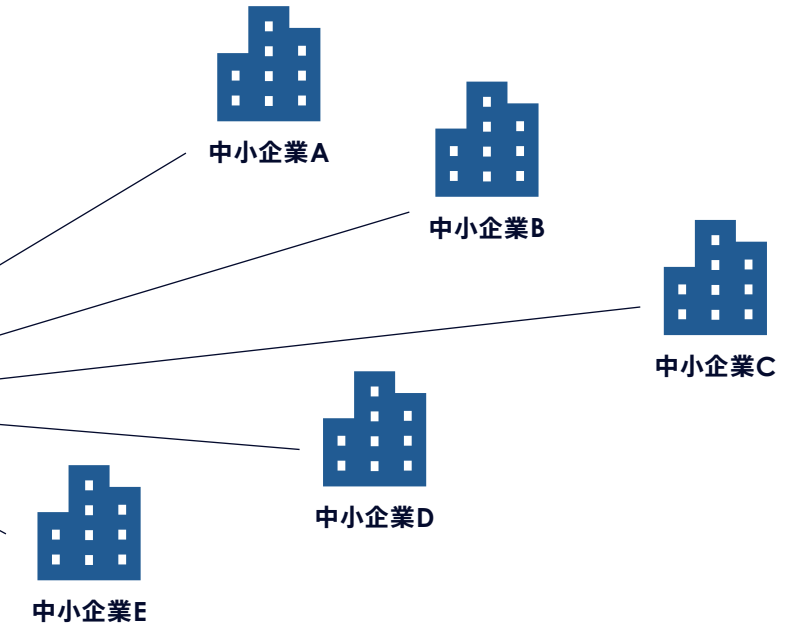
日本を支える  
全ての中小企業にDX職を

デジショク人材1名で複数社を同時プロデュース

専門知見を「シェアリング」し、  
業種・業界・規模等に合わせた最適解を提案

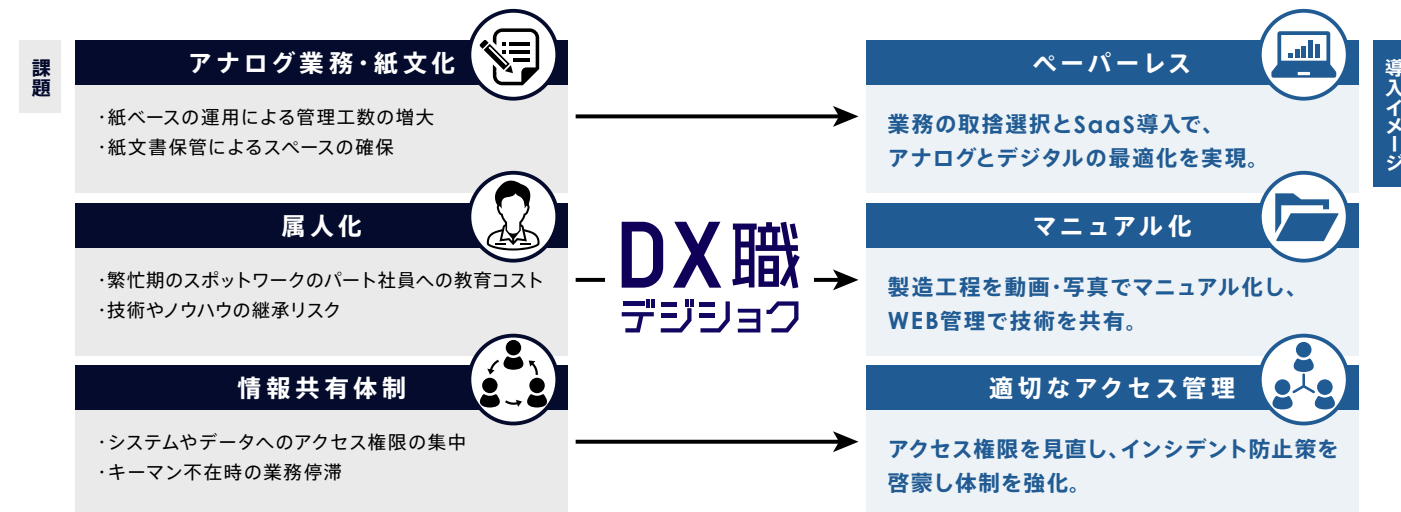


エキスパートのシェアリング  
中小企業でも高品質なDX支援を  
低コストで享受可能に。



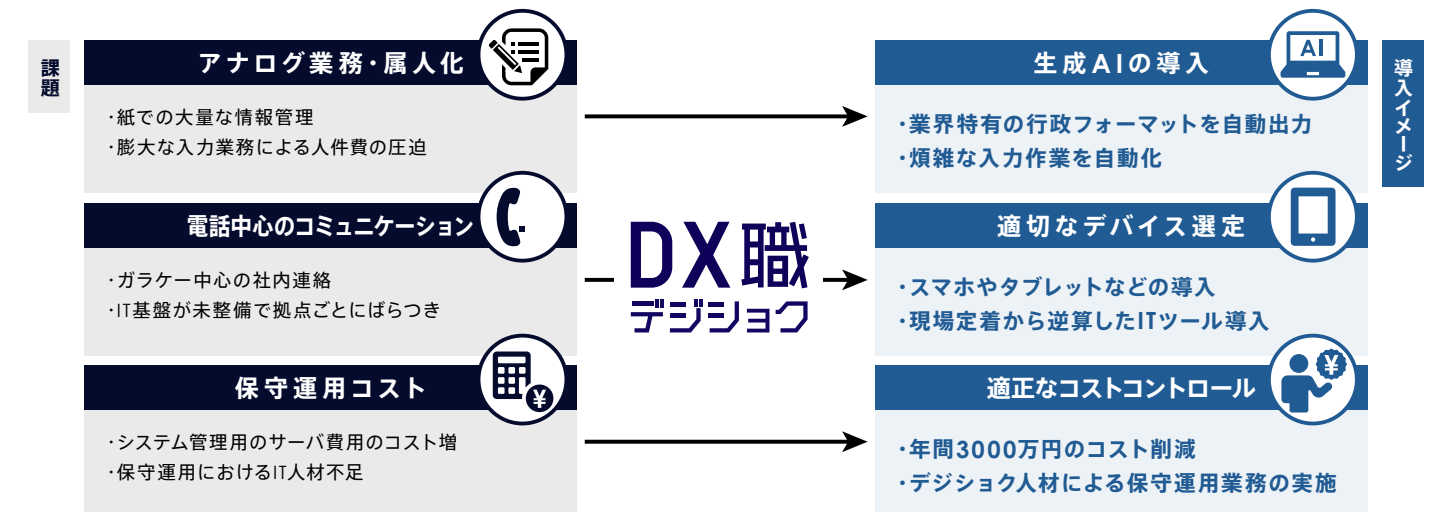
### 長野県 地方特産品製造メーカー

食品業界特有の紙文化の背景もあり、業務のアナログ化や属人化に課題を感じつつも、改善に向けた優先順位が上がりづらく、また、IT人材の採用コストもかけられない状況にあった。



### 大阪府 保育・介護サービス

利用者管理やスタッフのシフト管理のシステムの老朽化、機能の追加困難などの状況が発生し、IT人材不足や引き継ぎ不足から改善になかなか着手できないまま、既存システムの運用に限界が近づいていた。



# 健康経営の推進

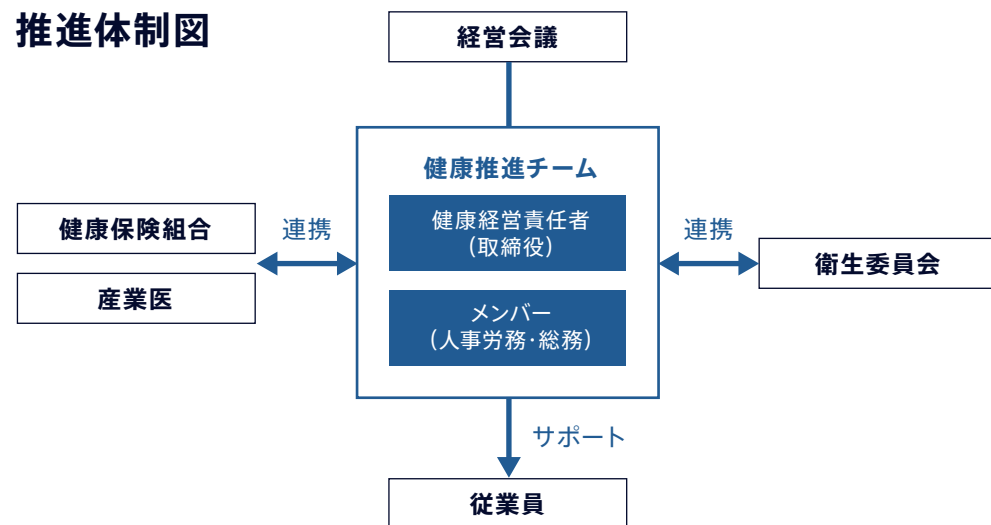
Promotion of KENKO Investment for Health (KIH)

ギークスでは、健康経営宣言の策定と推進体制を整備し、健康経営を推進しています。疾病予防・健康的な生活習慣の獲得・仕事と私生活の両立支援・コミュニケーションの4つの柱を軸にした様々な取り組みを通じ、メンバーだけでなく、その家族までサポートできるような体制を整えています。

## 健康経営宣言

ギークスグループでは、様々な事業活動を通じて社会に貢献するには、まず当社従業員とその家族の心身の健康が不可欠であり、重要な経営資源の一つであると考えております。グランドビジョンの実現に向け、従業員が十分な力を発揮し活躍できる環境作りに取り組み、健康経営を積極的に推進します。

## 推進体制図



## ウォーキングイベント2025秋(チャリティウォーキング)の開催

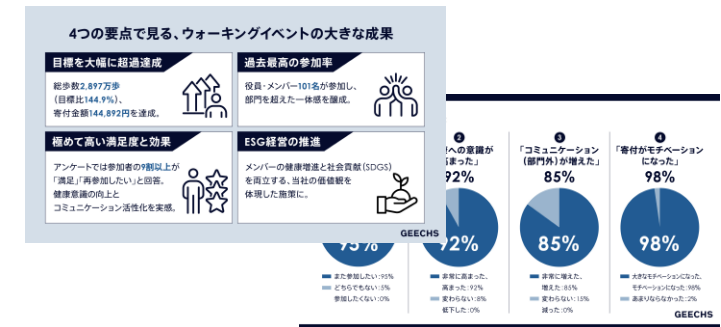
### 〈イベント概要〉

開催時期: 2025年11月  
参加人数: 101名(役員含む)  
総歩数: 28,978,432歩

※イベントは2025年5月にも開催し、半期に一度の実施。

### 〈チャリティーの背景〉

今回のイベントでは「200歩につき1円を会社が寄付する」というルールを設定しました。この成果に基づき算出された144,892円を、2025年12月に日本赤十字社へ寄付しました。寄付金は、日本赤十字社を通じて、災害時の毛布や飲料水の提供、医療物資支援などに活用される予定です。



## 2026年3月期に取得した認定

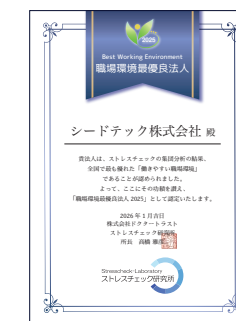
### 健康経営優良法人



### 健康優良企業「銀」の認定



### 職場環境最優良法人2025 (シードテック)



### 職場環境優良法人2025 (ギークス)



# サステナビリティ推進に向けた取り組み

## Sustainability Action

ギークスでは、ここまでに紹介した項目以外にも、サステナビリティ推進に向けた様々な取り組みを行いました。

### GEECHS Social Impact Flowの改訂

2027年3月期より、ギークスは、日本のDX・AXを全方位から支える「新しい時代のインフラ」への挑戦を進めていくため、ビジネスモデルの変革、提供価値の拡大などを踏まえ、一部改訂いたしました。



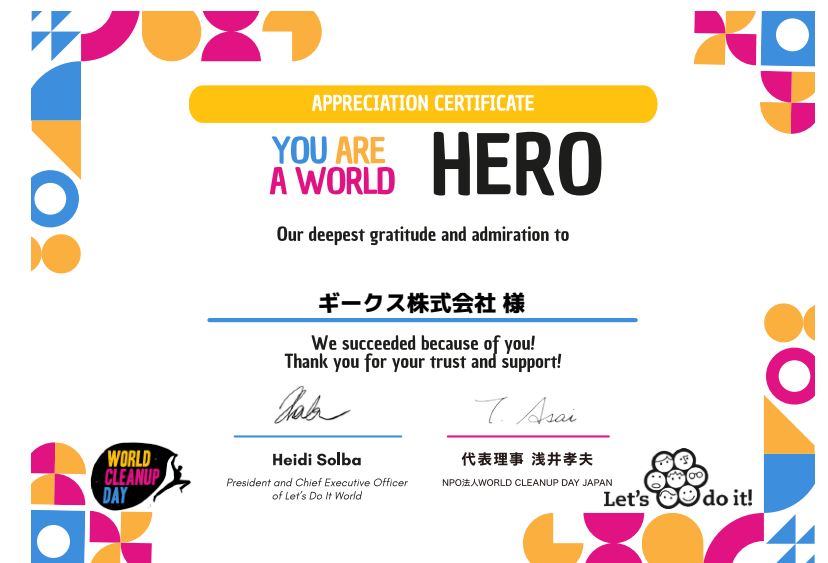
### DEI推進イベント

女性活躍や障害者のキャリア支援といった観点から、多様な人材が活躍できる社会の実現に向けたDEI推進イベントを実施しました。



### World Cleanup Dayへの参加

北欧エストニアの市民運動から始まった、毎年9月に開催される「World Cleanup Day」に参加し、原宿駅から渋谷駅にむかって、路上の清掃活動を行いました。



# 2027年3月期の サステナビリティ推進目標に対する開示

# 2027年3月期のサステナビリティ推進目標

## Sustainability Promotion Goals for FY3/2027

2027年3月期は、6つのマテリアリティに対する取り組み、また、ギークスのサステナビリティ推進担当部門を中心とした各種取り組みを通じて、ギークスグループのサステナビリティ推進を実施していきます。

### ◆ 6つのマテリアリティ①

#### 「技術リソースのシェア・流動化」の推進目標

・「GEECHS JOB」新規登録者数、取引企業数

### ◆ 6つのマテリアリティ②

#### 「IT・DX・AX人材の成長・リスクリング」の推進目標

・ITフリーランス向けのリスクリングプログラムの実施、コミュニティの運営  
・「Seed Tech School」や「ソダテク」の利用者拡大

### ◆ 6つのマテリアリティ③

#### 「フリーランスが安心して働ける環境の整備」の推進目標

・ITフリーランス向け福利厚生プログラム「フリノベ」の運営  
・オンライン、オフラインでのイベントやセミナーの実施

### ◆ サステナビリティ推進担当部門の推進目標

・サステナビリティ推進に関連するイベントの実施、情報発信、ブランディング強化  
・6つのマテリアリティの取り組み施策への支援及び再検討

### ◆ 6つのマテリアリティ④

#### 「コーポレートガバナンスの強化」の推進目標

・ゼロトラストを基準とした情報システム管理体制の推進  
・全社員を対象としたコンプライアンス研修の実施  
・上場企業の社会的責任遵守に向けた適切な情報開示

### ◆ 6つのマテリアリティ⑤

#### 「パートナーシップの形成・拡充」の推進目標

・健康経営の推進  
・様々なステークホルダーを対象としたイベント等の企画実施

### ◆ 6つのマテリアリティ⑥

#### 「気候変動への対応・対策」の推進目標

・ギークスグループ全体のサステナビリティ開示の実施  
・SX推進の観点からの業務改善提案



**GEECHS**